

a ミッション	「世羅がすき、甲山小学校がすき、学級がすき、そんな自分がすき」といえる児童の育成	a ビジョン (学校教育目標) 共に学び 進んで挑戦 思いやりいっぱい 甲山っ子 (めざす学校像) ○確かな学力をつける学校(基礎・基本の力、表現力) ○学びの環境を整え、安心・安全な学校 ○地域と連携し、信頼される学校 (めざす子ども像) ○課題を発見し、主体的に学ぶ子ども ○豊かに表現する子ども ○互いに認め合い、最後までがんばる子ども (子ども達に育てたい資質・能力) 表現力・主体性・自
---------	--	--

評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善計画		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
確かな学力	基礎学力の定着を図る。	○標準学力調査の結果を分析し、短期目標を決めた学習指導に取り組み、CRTテストで学習指導の検証を行う。 ・ICT機器を活用した授業改善(一人一台端末を使用し、主体的に学習に取り組めるよう意欲喚起を図り、思考が深まる授業を行う) ・甲山小授業スタイルの「学び合い」「まとめ」「振り返り」を大切にされた指導 ・ノート指導の充実と宿題の工夫 ・帯タイムを活用したドリル学習の充実 ・読書活動の充実(環境整備・読書目標等)	○標準学力調査・CRTテストにおいて、正答率が全国平均を上回った児童の割合	75%										
	課題解決に必要な情報活用能力の育成を図り、その力を発揮させる。	○情報活用能力の体系表に示した資質・能力の育成をめざした授業、一人一台端末を活かし児童が積極的にICT機器を活用して課題解決を図る授業を実施する。 ・「映像コンテンツを活用した学習」「Gsuiteを活用した協働的な学習」「プログラミング」「情報モラル」の授業実践 ・児童が積極的にICT機器を活用して課題解決を図る授業実践	○「キーボー島アドベンチャー」において、到達目標を達成した児童の割合(3年生…上半期 25級・下半期20級)(4年生以上…上半期 20級・下半期 15級) ○情報活用能力に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童の割合	3年生 75% 4年生以上 80% 低学年 70% 中学年 80% 高学年 90%										
	「生きる力」につながる基礎・基本の学力を身に付けさせる													
豊かな心	積極的な生徒指導を推進する	児童一人一人の自己肯定感を高め、自信を持たせる。	○あいさつ名人、MUGONマイスターを表彰し、手本となる姿を示して全体のレベルアップをめざす。 ・スモールステップで取組を行い、レベルアップを図る。 ・取組後のアンケートを実施し、自分の成長に気付かせ自信を持たせる。 ○児童会や高学年を中心として縦割り班で活動する場を設定し、協力して楽しく活動する中で、互いに認め合える集団づくりを進める。 ○児童が自ら課題を見つけ、解決に向けて主体的に行動できるように、児童会や高学年を中心として取組を進めていく。	○あいさつレベル4以上、返事レベル2以上を達成した児童の割合 <あいさつレベル> <返事> 5 笑顔で 5 立ち止まっておじぎ 2 大きな声で 4 顔を見て 3 自分から 1 小さな声で 3 ほっきり 2 ほっきり 1 聞こえる声	80%									
健やかな体	健康づくりや体力づくりを推進する	○児童に基本的な生活習慣を身に付けさせる。 ○児童が積極的にICT機器を活用して課題解決を図る授業実践	○チャレンジ週間の「ノーマディア」の項目で、夜8時からノーマディアができた児童の割合	75%										
	○基礎体力の向上を図る。	○握力や長距離走などの運動を、体育の授業や体育朝会時などに計画的に位置づける。 ・体育の時間に、走力・握力等を組み入れた「サーキットトレーニング(室内・外)」,または「長距離走」(トラック2周)を走らせる。 ・週に一回、体育朝会を設定し、音楽を流す間、トラックを走る「長距離走」を継続的に行う。 ・にぎにぎホールコーナー等、児童が自主的に挑戦する場を設置する。 ○握力の甲山ギネスを掲示したり、「長距離走」で何周走れたかをカードの記録したり、定期的(4、5、6、10、11、12月)に長距離走のタイムを測定したりすることで、目標をもたせて、意欲づけを図る。	○体力テストの握力の記録で県平均値を上回る学年(男女別)の割合 ○「長距離走」(低学年：小トラック3周、高学年：大トラック5周)のタイムが4月の計測時よりも向上した児童の割合	握力 60% 長距離走 80%										
子供時間との向き合い	学校における働き方改革の推進を図る。	○児童の自己肯定感の高揚を図り、自信をもたせる。 ○やりがいとつながりのある職場づくりを推進する。 ○日常的な業務改善を推進する。	○肯定的評価と積極的な生徒指導を推進するとともに、丁寧で適切な保護者連携を日常的に図る。 ○児童実態等に係る「ハウレンソウ」の徹底を図るとともに、職員同士のコミュニケーションを大切に、情報の共有化を図る。 ○業務や行事の精選・重点化・省力化、環境面等に係る業務改善を推進するとともに、スケジュール管理により見通しを持って業務遂行ができるようにする。	○時間外勤務時間(職員平均)月45時間以内の割合	100%									

【自己評価 評価】
 A：100≦(目標達成)
 B：80≦(ほぼ達成)<100
 C：60≦(もう少し)<80
 D：(できていない)<60

【外部評価】
 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。ハ：わからない。